

「新エネルギーパーク・かづの」の実現に向けて

新エネルギー導入の推進は、市民、事業者、行政（市）が相互に連携し、それぞれの役割の中で新エネルギー導入の取り組みを継続的に進めていく必要があります。

推進体制のイメージ

市民

- ・新エネルギー機器の積極的導入
- ・エネルギー・環境問題に対する理解と関心を深める
- ・エネルギー導入支援活動への積極的な参加

事業者

- ・新エネルギー機器の積極的な導入
- ・エネルギー・環境問題に対する理解と関心を深める
- ・エネルギー導入支援活動への積極的な参加
- ・新技術開発への取り組み

行政（市）

- ・新エネルギー機器の率先的導入と導入支援
- ・情報提供や広報活動
- ・国や県、近隣自治体、関係機関、教育関係機関等との連携



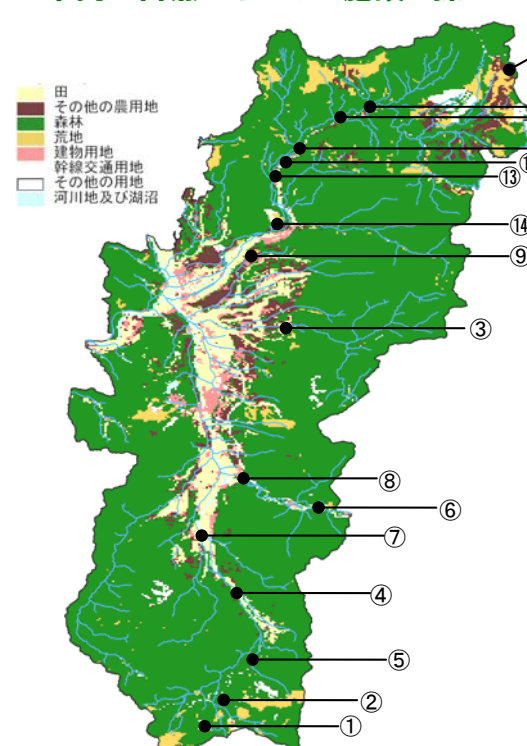
お問い合わせ：鹿角市共働推進課

〒018-5292 秋田県鹿角市花輪字荒田4番地1

電話：0186-30-0224 FAX：0186-22-2042

e-mail：kankyouseikatsu@city.kazuno.lg.jp

市内の自然エネルギー施設を探してみよう！



鹿角市内には、地熱や小水力、風力などの自然エネルギーを利用した発電施設が地域内に多く存在しており、平成21年の自然エネルギーによる自給率は、全国市町村の中でも上位に位置するなど、鹿角市は、自然資源のエネルギー利用という面で先進地といえます。



種類	発電所名
地熱発電	①澄川地熱発電所
	②大沼地熱発電所
水力発電	③柴平発電所、④八幡平発電所
	⑤八幡平第二発電所
	⑥湯瀬発電所
	⑦永田発電所、⑧碓発電所、⑨大湯発電所
	⑩銚子第一発電所、⑪止瀧第二発電所
	⑫新大楽前発電所、⑬扇平第三発電所
	⑭大湯第四発電所、⑮沼平発電所
風力発電	⑯田代平風力発電所

鹿角市 地域新エネルギービジョン

新エネルギー って何？



エネルギー問題、環境問題は、世界規模で取り組まなければならない問題であり、石油に代わるエネルギーとして、太陽や風力、水力、地熱などの自然の力を利用したエネルギーの普及が期待されています。そのうち、「技術的には十分であるが、経済性の面から普及が進んでいなく、今後、石油に代わるエネルギーとして必要なもの」を「**新エネルギー**」と呼んでいます。

新エネルギーには、太陽光発電、太陽熱利用、風力発電、バイオマス発電、中小規模水力発電、地熱発電、バイオマス熱利用、雪氷熱利用、温度差熱利用、バイオマス燃料製造があります。

鹿角市における地域特性や市民意見などを踏まえて、新エネルギーの導入を進めていくための方針、施策、体制などをまとめたものが「**地域新エネルギービジョン**」です。

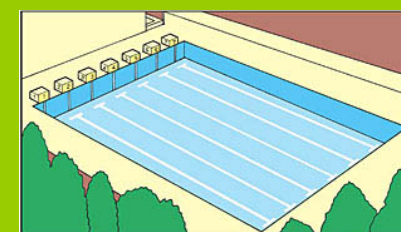
このビジョンは向こう10年間の新エネルギー活用促進の方向性を示しています。

新エネルギー ビジョンって何？



鹿角市内に新エネルギーはどのくらいあるの？

新エネルギーの量を原油換算すると、25mプール
約**4,800杯**分の新エネルギーが市内にあります。



市内にある新エネルギーは、現在十分に利用されていないため、この新エネルギーを有効に利用できれば、持続的に市内で消費されるエネルギーをすべて新エネルギーでまかなうことも可能です。



新エネルギーの導入により何をを目指すの？

目指す目標像

低炭素社会の形成が求められる中、化石燃料に変わるエネルギー源として、新エネルギーの普及は、行政だけでは困難であり、市民・自治会・市民団体・事業者などとの「共働」が不可欠です。

市民一人ひとりが共働により、新エネルギーの導入・普及という共通の目標に向かって行動することで、市内のあらゆる場所に新エネルギーが導入されます。それらを有機的にネットワーク化することにより、鹿角全体が一つの新エネルギーに満ちた空間「**新エネルギーパーク・かづの**」の創造を目指します。「新エネルギーパーク・かづの」の創造が、環境への負荷を低減するとともに、市民に快適な環境をもたらし、農業や観光などの地域の活性化につながることを期待されます。

基本方針 1

多くの市民の目に触れ、体感することで環境への意識を高める

具体的な施策

- 市役所庁舎や小中学校など多くの市民が利用する既存施設や、「(仮称) 学習文化交流施設」など新たに整備が計画されている施設への、太陽光発電システム、木質バイオマスによる熱供給システム、地中熱利用ヒートポンプなどの新エネルギー等の導入を推進します。
- 家庭や飲食店、旅館、給食センターなどから出る廃食用油をBDF化し、スクールバスや農耕機等に利用し、BDFを利用した農耕機で農作物をつくり、それを給食に利用するなど、「エネルギー」と「食」が循環するシステムを検討します。
- BDFの原料となる廃食用油についても、事業者と行政が連携し、廃食用油の回収場所の拡大と回収方法を検討することで、BDF事業の拡充を進めます。

基本方針 2

共働による新エネルギー普及の仕組みをつくる

具体的な施策

- 太陽光発電や小水力発電の設備などを地域で共同利用する市民共働設置型の新エネルギー機器の導入システムの構築を目指します。
- 将来、環境に配慮した行動をとることができる人材育成を目指し、学校における新エネルギー教育の充実を図ります。
- 教育機関や環境関連団体などと連携し、生涯学習の場において、新エネルギー教育の充実を図るとともに、市民に対する意識啓発を図ります。
- ホームページや広報紙の活用とともに、各種イベントとの連携などにより、市内に存在する新エネルギー設備や新エネルギーに関する情報を提供します。

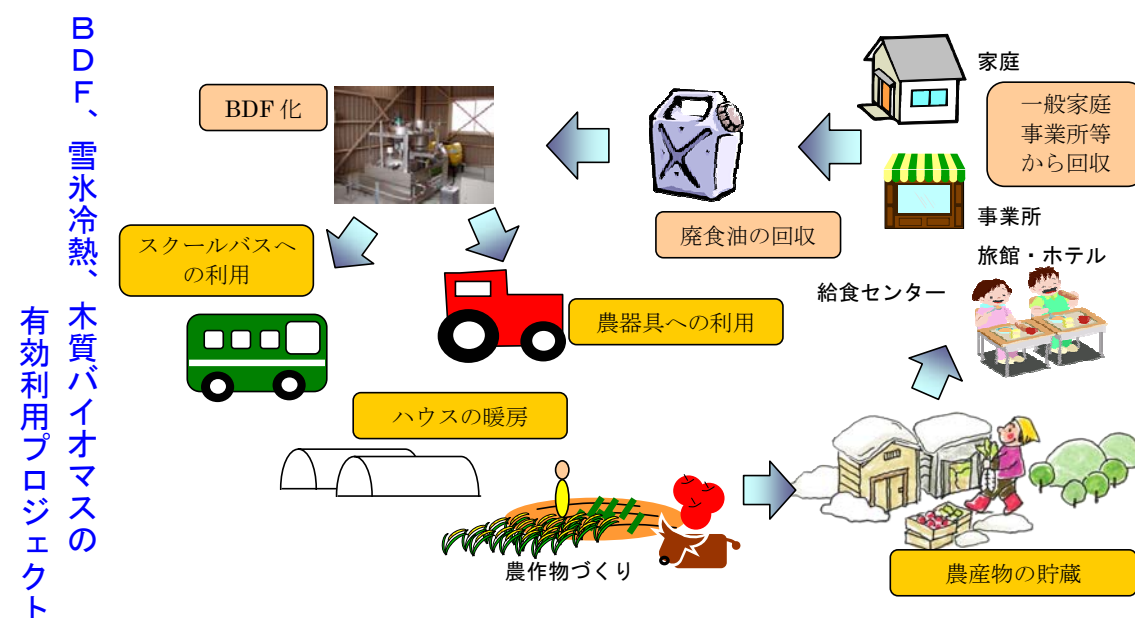
基本方針 3

新エネルギーの導入により地域の活性化を図る

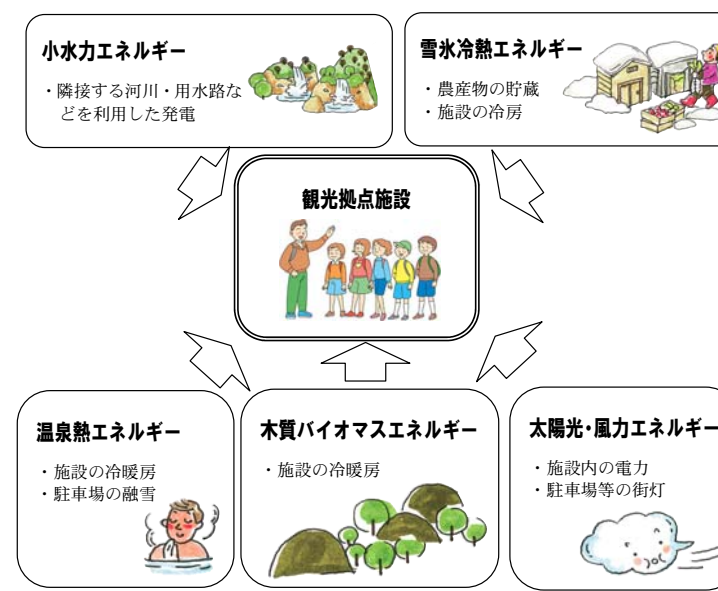
具体的な施策

- 観光施設やスポーツ・レクリエーション施設へ、冷暖房のエネルギーとして温泉排水熱や木質バイオマスエネルギーの利用、農産物貯蔵などへの雪氷冷熱エネルギーの利用などできる限り新エネルギーの導入を進めます。
- 市内に設置された新エネルギーをめぐりながら見学するなど、相互を有機的にネットワーク化することで、観光とともに視察の受け入れや環境教育などに活用し、地域経済の活性化につなげていきます。
- カーボン・オフセットへの積極的な取り組みにより、企業のイメージアップや環境保全活動に対する支援等を行うほか、新エネルギー関連の起業支援や企業誘致を推進し、地域経済の活性化と雇用の創出を目指します。

主なプロジェクトイメージ



観光施設・スポーツ施設への新エネルギー導入プロジェクト



木質バイオマス等導入推進プロジェクト

